

白神トピックス

『白神ねぎ』続々と出荷

J Aあきた白神

10月1日から始まる秋冬ねぎの出荷を控え、夏ねぎの出荷が終盤を迎えています。平成27年産の夏ねぎは、干ばつの影響で害虫の発生が多かったものの部会員の徹底した管理により高品質の『白神ねぎ』が出荷されています。9月末の販売実績は512,976千円（昨年同期375,560千円）となっており、悲願の販売額10億円達成に向け、収穫作業に励んでいます。

10月から出荷を迎える秋冬ねぎは、軟腐病などの発生も少なく順調に生育しており、特に砂地の圃場では収量が多いと予想されています。10月上旬には出荷が本格化し、下旬には出荷のピークを迎えます。



▲収穫調整されたねぎを運ぶ職員



▲稲穂を刈取る青年部員

青年部多収穫競争会を開催

青年部

J Aあきた白神青年部（池端竜部長）による多収穫競争会が9月14日に行われ、27年産米の出来について確認しました。

管内の青年部員は依頼を受けた圃場を訪れ、1坪分の稲を刈り取って計測し、今年の予想収量や刈り取りの適期などを調査しました。全15カ所の坪刈りを行った結果、10a当たりの最高収量は666.2kgで、平均収量は584.6kgとなりました。平成27年産米の作柄は、1穂当たりの粒数は少ないものの、穂数は田植後の気温・日照時間が平年を上回って経過したことで多く確保されており「やや良」となりました。

秋作業の無事終了を願う

J Aあきた白神

J Aあきた白神では、秋作業を間近に控え、安全に対する意識を高めることや作業を円滑に進めることを目的とした、作業安全管理研修会を9月14日に開催しました。農業関連施設に関わる職員など22名が参加しました。

研修では、労働安全コンサルタントの関雅幸氏を講師に、秋田県の労働災害発生状況や発生原因の説明、フォークリフトなどの労働災害の防止対策等について説明しました。また、心身をリラックスさせ、うっかり・ぼんやりを防ぐリラクゼーションや指差し呼称の重要性も併せて説明され、参加者は秋作業の無事終了を願い意思統一を図りました。



▲安全作業に向け意識を高めました



▲熱戦が展開された野球大会

能代第四小野球クラブ惜敗

J A共済

児童の体力向上と健全なスポーツ精神の育成を目的とした、第13回 J A 共済学童野球大会が9月12日と13日の2日間にわたって開催され、県内15 J A の代表が熱戦を繰り広げました。

当 J A からは、7月の予選で全県大会への切符を手にした、能代第四小野球クラブが出場しました。1回戦は岩城スパイラルズ（J A 秋田しんせい）と対戦。試合は5回まで4対2とリードし優位に進めました。しかし6回裏に相手の連打や守備の乱れもあり逆転され、最終回の攻撃で2点差まで迫るものの9対7で敗れ、惜しくも初戦突破とはなりませんでした。